



## 第2章 地域づくりガイドラインの活用について

### 1 地域づくりのための協議の進め方

- 解決すべき地域の課題や、社会資源の種類や量は、各地域様々ですが、この地域づくりガイドラインで「めざす姿」を提示したのは、それぞれの地域で関係機関等が協働する地域づくりのプロセスを確立するためです。ガイドラインの各項目について、機能の有無を機械的にチェックするのではなく、めざす姿を1つの目標として、地域の現状を評価し、地域の課題について共通の認識を持ち、具体的な解決策を協議、検討、実施するといった一連のプロセスを重要視しており、ワークシートを表しました。

このワークシートは、地域づくりを行うための1つの材料となるものです。

### 2 地域づくりのための活用

- 地域の協議会等の関係者が協議する場面だけではなく、当事者や親の会、町内会などでも、それぞれに関係深い項目を活用したり、シートを少し工夫することで、自分達が取組めることについて考える材料とすることができます。関係者だけでなく、地域住民とこういった話し合いをすることは、様々な視点から我がまちを見ることができ、非常に有益です。また、障がい及び障がい者への理解を促進するとともに、身近な支援者を増やす機会となり、地域の課題を解決する力の向上につながります。

#### (1) ワークシートの構成

ワークシートは【現状評価】【優先順位の検討】【計画立案】の3つの過程に対応した項目で構成しています。具体的に我がまちについて考え、我がまちなりのガイドライン、地域づくり計画をつくるものです。

めざす姿	地域づくりガイドラインの『めざす姿』が入ります。
機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域づくりガイドラインの『めざす姿を実現させるための機能等』が該当します。</li> <li>• ガイドラインに掲載している項目以外にも、各地域で必要と思われる機能や視点を、随時、付け加えてください。</li> </ul>
現状評価 我がまちな取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 我がまちな現状評価をする過程です。</li> <li>我がまちでは、こんな取組みをしている、機能を担う人がいる、一機関では充分ではないけれども、〇〇と△△で役割分担したり、□□の形で機能を満たしているなど、具体的に考え、「我がまちな取組み」</li> </ul>

<p>・課題</p>	<p>欄に整理します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要性（地域に求められているもの）を考慮し、不足している機能、「こうあったらいい」という体制、支援を「課題」欄に整理します。この現状評価の欄はシートの中心的な部分です。</li> <li>公的なサービス（社会資源）や、目に見えるものだけがあてはまるものではありません。我がまちのいいところに注目してください。</li> </ul>
<p>優先順位</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域によっては、課題が多く出てくるかもしれませんが、全てを同時に取組むことは困難です。</li> <li>その中から、重要性や緊急性、課題解決に要する期間などを考慮して、優先順位をつけてください。出てきた課題全てに優先順位をつける必要はありません。</li> </ul>
<p>長期目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状評価をもとに、我がまちの目標、めざす姿を記載します。</li> <li>地域づくりガイドラインの『めざす姿を実現させるための機能等』に記載している程度の大きさで記載していくとよいでしょう。</li> <li>次の協議過程で、具体的な取組みについて検討しやすだけでなく、「めざす姿」「めざす姿を実現するための機能等」を整理することにより『我がまちのガイドライン』になります。</li> </ul>
<p>短期目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期目標に対し、数ヶ月～1年程度の段階的な到達点、短期目標を設定します。</li> </ul>
<p>短期目標に向けた具体的な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設定した短期目標に向けての具体的な取組みを記載します。ここでは、役割分担を明確にすることが必要です。</li> <li>市町村内にはない広域サービスの活用や、専門的支援が必要な場合もありますが、そこに全てを委ねるのではなく、自分達の地域で、自分達はどのようにしていくのかを考えることが大切です。</li> </ul>
<p>中・長期の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めざす姿、長期目標を踏まえ、中・長期の取組みを設定します。</li> </ul>

## (2) ワークシートの使い方

最初に、我がまちにおける障がい者の地域生活を支える支援の全体像をとらえる必要があります。障がい種別により、支援の内容等が異なるだけでなく、例えば就学や就職の時期、単身生活を始める時期、医療的ケアの確保が必要な人など、様々なライフステージや場面で、求められる支援がどのようなものか、我がまちにおいてどのような支援ができるのか、今までに関わった障がい者の生活等を思い浮かべ、イメージをふくらまします。地域づくりのための協議の進め方は以下のとおりです。

### 【現状評価】

**<活用方法の例1>**  
 障がい者が、自分達のまちで、その人らしく生活することを基本に、『機能』の項目にそって、我がまちにおけるその機能がどのような状況であるか話し合

います。

- 単に資源や機能の有無ではなく、機能があるとするならば、どのような取組みからそう判断できるのか、一方、機能が不足しているという場合は、どうしてそのように考えるのかを、みんなで話合います。
- 一つの項目についても、その人の立場や視点により、様々な評価結果が出るのは当然のことです。それぞれの考え方を理解、尊重し、現状を共通認識していく過程が非常に重要です。
- そのことにより、地域の現状評価が深まり、課題解決へのヒントも得られます。
- 話し合う過程で、それぞれの機関等の役割理解が進み、協働の関係がつけられていきます。
- それぞれの機能について、イメージを具体化しづらいなど、深く掘り下げた議論が進まない場合は、実際の個別の相談事例を通し、『機能（視点）』の欄の項目ごとに、その人にとって地域の体制や機能についてどうだったのかを考えてみることも効果的です。

この場合は、どうしても、直面している目先の課題に固執したり、該当する項目が一部分だけになりがちですので、他の事例や、もしこういう障がいのある人だったら、どう対応できるのだろうかなどと具体的に想定しながら、まち全体を考える客観性を持って、より多くの機能について検討することが大切です。

## <活用方法の例2>

めざす姿に向かって、地域で最低限おさえたい、また、大切にしたい機能などを、話し合いによって、共有することから始めます。

- ガイドライン項目にある『めざす姿を実現させるための機能等』を参考にしながら、我がまちのガイドライン項目一覧を作成していくイメージです。
- そのためには、各市町村での取組みや課題についても同時に協議していくことが必要であり、『機能等』、『わがまちの取組み』、『課題』の3つの欄を、行ったり来たりしながら協議することになります。
- 『めざす姿を実現させるための機能等』が細分化されており、地域の現状と重ねあわせにくい、地域づくりについて協議する土台ができている、まず自由に意見交換したい、というような場合には、『めざす姿を実現させるための機能等』を空欄にするなど、シートを部分的に変更して、この活用方法2に取り組むことも有効です。

## 【優先順位の検討】

- ・課題が整理できたら、課題解決に向けた取組みを、どの課題、項目から始めるか、優先順位をつけます。
- ・緊急性や重要性があるものはもちろん優先させるべきものですが、「これならできそうだ。まず、やってみよう」という関係者の気持ちも、優先順位をつける際の大きな要因となります。

## 【計画作成】

- ・優先順位が高く設定された現状の評価結果に対し、我がまちでは、どのような姿をめざすのか、その実現のために必要な機能等（長期目標）を再度、みんなで確認します。
- ・その実現のために、具体的な取組みを協議していきます。  
限られた資源をどう工夫して活用していくか、障がいの有無にかかわらず、地域住民の人の力をいかに発揮してもらうかなど、まずはいろいろな視点から、たくさんのアイデアを出し合います。
- ・短期目標に向けての具体的な取組みでは、役割分担を明確にします。それぞれがどういったことができるのか、現状評価のプロセスをふまえ、建設的な協議が求められます。

また、市町村にはない広域サービスの活用や、専門的支援が必要な場合がありますが、そこに全てを委ねるのではなく、広域のサービス提供者や専門的支援者と、どう連携し、自分達の地域でどのような支援ができるのか、自分達はどのようにしていくのかを考え、継続して関わる姿勢が大切です。

- 短期目標の達成時期等を目安に、実行してみてどうだったのか、改善点や状況の変化を確認します。計画作成の段階で、次回の評価時期についても、共通認識しておきます。実施後に再評価をすることは、現状の把握・評価をする、解決方法を検討する、実行してみる、そしてそれがどうだったのか修正、改善するという一連の活動サイクルになります。既存のワークシートに加筆したり、関係する項目については再評価の段階で新しいシートに記載するなど、経過がわかるようにしておきます。

## (3) 有効な協議の場とするために

- 参加者が話しやすく、それぞれの貴重な意見をひき出すためには、事前の検討、準備が必要です。例えば、同じ機関であっても、管理職と実務者ではそれぞれ違う視点が期待できますので、どこに話し合いの焦点をあてるか、その目

的てきによって、適てきすると思おもわれるメンバこうせいー構成とすることが望のぞましいです。  
地ち域いきの協き議ぎ会かいを設せつ置ちしている市し町ち村そんでは、地ち域いき課か題だいを共き有ゆうする機き能のうを有ゆうする  
(定てい例れい会かいなど)を活かつ用ようすることが効こう果か的てきです。

- 話はなしやすふんいいききな雰しんこうやく圍そくしんしゃ気そくしんしゃをつくるとたしんこうやくめには、進しんこうやく行そくしんしゃ役そくしんしゃがフしんこうやくァシそくしんしゃリそくしんしゃテしんこうやくーそくしんしゃ（促そくしんしゃ進そくしんしゃ者そくしんしゃ）  
としんこうやくしての技ぎ術じゆつをつかつかい、時ときには場ばの緊きん張ちやうを解とき、和なごませるよほうほううな方かつよう法かつようを活かつよう用ようして  
もよよいでしよう。

ファシリテやくわりーの役やくわり割やくわり：

- ・参さん加か者しやが主しゆ体たい的てきに考かんがえらしえんれるよこえうな支おこな援さん、声さんかけをか行しんう（参さん加か者しや自じ身しんのき氣うながづきを促うながす）。
- ・参さん加か者しやが公こう平へいに発はつげん言げんがでしんこうやくきるよしんこうやくうにする。
- ・傾けい聴ちやうし、中ちゆう立りつな立たち場ばでアイひデアだを引ひき出だす。
- ・議ぎ論ろんが本ほん題だいから外はずれときすぎないよかいぎう、時しんこうに、会き議どうの進しゆう行せいを軌き道どう修しゆ正せいする。

話はなし合あいのルるールる：

協き議ぎの場ばで、建けん設せつ的てきな意い見けんや新あたらしいアイうデアうが生さんまかれるたさんめには、参さん加か者しやそ  
れそはいりよれの配ひつ慮ようが必ひつ要ようです。

- ・他た人にんの発はつげん言げんを否ひてい定ひ、非ひ難なんしない。
- ・課か題だい、問もん題だい点てんは、そげんいんの原げん因いんや責せき任にんの所しよ在ざいを掘ほり下さげるのかいけつではなく、解かい決けつする  
たほうこうせいめの方ほうこうせい向せい性せい（「ここううあこうつたらこういい」「ここううでこうきたら」）をささぐる。
- ・解かい決けつの方ほうこうせい向せい性せいを探さぐろうとしない不ふ満まんや非ひ難なんの言いいたはたしきや、他た機き関かんに責せき任にん  
をお押おしはつげんつはつげんけるよはつげんうな発はつげん言げんははつげんしない。
- ・地ち域いきのちゆうもくいちゆうもくいちゆうもくとちゆうもくころちゆうもくや、でちゆうもくきちゆうもくてちゆうもくいちゆうもくるちゆうもくこちゆうもくとちゆうもくろちゆうもくや、しちゆうもくっちゆうもくかりちゆうもく注ちゆうもく目ちゆうもくする。いちゆうもくいちゆうもくとちゆうもくころちゆうもく伸ちゆうもく  
ばちゆうもくしちゆうもくの視ちゆうもく点ちゆうもくをちゆうもく持ちゆうもくつちゆうもくて、がちゆうもくんちゆうもくばちゆうもくりちゆうもくをちゆうもく自ちゆうもく分ちゆうもく達ちゆうもくで認ちゆうもくめる。
- ・会かい議ぎではつげんの発はつげん言げんは、不ふ必ひつ要ように外そとに持もち出ださない。

# ワークシート

めざす姿	機能等 (視点)	現状評価		優先 順位	目標	目標に向けた対応		
		我がまちの取組み (有する機能)	課題			短期目標	短期目標に向けた 具体的取組み	中・長期の取組み
I-1 地域の中に、障 がい者等のニー ズをしっかりと受 け止めるしくみがある。	① 「ニーズ」に共感する相 談支援を行うため、訪問など により、普段見えにくい相談 者の生活実態を「見る」という 取組みを行っている。							
	② 困ったり悩んだりするこ とがありながら、相談するこ とができない障がい者の ニーズを潜在化させないた め、地域において、しっかりと 相談を受け止める多様な窓 口を確保する取組みを行っ ている。							
	③ 様々な立場の人々が自 由に参加し、障がい者が暮ら しやすい地域づくりについて 議論するなど、ニーズが集 まる機能を持った「場」が地 域の中にある。							
	(追加)							
	(追加)							

機能の有無、できている、  
できていないと評価したり、  
点数をつけるためのものでは  
ありません。

情報を共有する、協議するプロセスが大切です。  
シートは話し合うため、改善するための材料です。

全てに取組むことは困難です。  
自分たちが、できることから始めましょう。

・シートをきれいに埋めることが目的とならないように  
しましょう。あくまでも協議のための材料です。

・項目 I の1から順番に話しあったり、一つずつの項目  
を必ずしも分けて考える必要はありません。  
メンバーによって話しやすい項目から、取組んでくだ  
さい。

・出てきた課題すべてに取組むことはできません。  
優先順位をつけましょう。

ワークシート(実践例)

めざす姿	機能等 (視点)	現状評価		優先 順位	目標	目標に向けた対応			
		我がまちの取組み (有する機能)	課題			短期目標	短期目標に向けた 具体的取組み	中・長期の取組み	
I-1 地域の中に、障がい者等のニーズをしっかりと受け止めるしくみがある。	① 「ニーズ」に共感する相談支援を行うため、訪問などにより、普段見えにくい相談者の生活実態を「見る」という取組みを行っている。	・〇〇市から委託を受けている「相談室〇〇」では、利用者の必要に応じて家庭訪問を実施し、生活実態を把握することができている。	・家庭に入り込むことで、生活の様子を把握することはできる反面、家族の干渉などによって、利用者自身の本当のニーズが見えにくくなることもある。		①「相談室」の存在の周知を図る。	①PR活動の展開	①パンフレット、広報での紹介、回覧板の活用、公共施設のトイレを利用した情報発信など積極的なPR活動を行う。		
	② 困ったり悩んだりすることがありながら、相談することができない障がい者のニーズを潜在化させないため、地域において、しっかりと相談を受け止める多様な窓口を確保する取組みを行っている。	・地域の中に児童デイ・障がい福祉サービス事業所も含め、「相談室〇〇」、就業・生活支援センター「△△」など多様な窓口が確保されている。	・市民レベルの認知という面ではPR不足である。 ・何らかの手帳を持ちながら福祉サービスの利用がない場合など、ニーズが潜在化しかねないが、現在はそのことを吸い上げるシステムがない。 ・周りが困っていても、本人には「困った感」がない場合もニーズが表面化しづらい。 ・例えば戸別訪問をする場合は、昨年の強化事業の実施で痛感したことが、行政のバックアップが必要である。		①相談室をより多様化していく。	①困ったときに相談できる人作り。	①保健師、幼稚園、保育所、民生委員いわては自治会など地域の一人ひとりが「その時の相談窓口になる」という意識づくりを行う。(機会を活かした啓蒙活動・研修会の実施など)		市の主体的な取組みであることを意識する。
	③ 様々な立場の人々が自由に参加し、障がい者が暮らしやすい地域づくりについて議論するなど、ニーズが集まる機能を持った「場」が地域の中にある。	・当事者の団体、支援者の団体とさまざまなグループがあり、それぞれに活動を行っておりそのなかには「話し合う場」はあるが、横のつながりは不足している。 ・声を吸い上げる「場」やシステムはない。	・児童デイの父兄を見ていても、代代的に「群れない」のでニーズの集まる場を作ること意識して働きかけてもなかなか上手くいかない。学校に入るまでの経過的な活用という認識とまりになっている。 ・「話し合う場」はあっても「議論」するということは難しい状況。 ・横のつながりを意識した「場」作りが必要。		②潜在化しているニーズの把握	②戸別訪問の実施に向けた行政への働きかけ	②戸別訪問の必要性和行政が同行することの有効性について働きかけを継続する。		
			①「話し合う場」の共有化を図る。	①地域の協議会への働きかけ。	①誰でも参加できるミーティングを年に一度、地域の協議会の主催で開催する。				